

美しい山を守るために

甲府市立南西中学校 2年 高橋 賢誠

「お父さん、あと少しだから頑張って」

これは去年、父と二人で北岳へ登山に行った時の、帰り道での会話だ。僕と父は登山が好きで、毎年、たくさんの山に登っている。そして、北岳は二回目なので体力的な心配はしていなかったのだが、この日は、父はいつも以上に疲れていて、まるで牛歩のようでなかなか進まない。帰りのバスの時間がせまっていたので、なんとか励まして無事に下山した。

こんなにも疲労困憊の状況で、よく怪我もせず帰ってこられたな、と振り返った時、それは、登山道の段差がある所には階段が作られていたり、急な所には梯子がかけられていて、また、道に迷わないようにピンク色のテープが木につけられ、分岐地点には標識が立てられているなど、人の手で整備されているからだと気がついた。

このような登山道は誰が管理しているのだろうと疑問に思い調べてみると、場所によって異なるが、環境省や林野庁、都道府県や市町村が関わっているということが分かった。つまり、登山道の整備には税金が使われているのだ。

しかし、税金だけではまかなえず、民間の山小屋の人やボランティアが担っていることもあるそうだ。また、一部の山では、協力金を募っているところもある。例えば、南アルプスでは、中学生以上は三百円。これは去年、北岳へ行った時に僕も支払った。北アルプスでは一口五百円。各山小屋に協力金収受箱が設置されているそうだ。秋に燕岳に登る予定があるので、お小遣いを持ってしっかり協力したい。富士山は任意ではあるが入山料を徴収している。今後は税金として義務化が検討されているが、登山者全員が納税できるように、是非、早めに実現されることを願っている。滋賀県米原市では、大雨で登山道が崩落した伊吹山の復興のために、ふるさと納税で支援金を募っているそうだ。二千元以上で返礼品はなし。これは、登山道の早い回復を願う人の思いが明確に届く、とても良い方法だと思う。

これらの税金や協力金は環境保全や登山道の整備に使われるのだが、どの山も同じように整備されているわけではないのだと、色々な山に登って実感している。例えば、富士山、北岳、白馬岳など人気のある山は整備がいき届き、お手洗いや水場まであり、とてもありがたい。一方で、あまり有名でない山は、それがないことがほとんどで、少し危険な箇所があったりもした。

中学生の僕にできることは協力金を払うことだ。しかし、協力金やボランティアに頼ることなく、税金でまかなえるようになることが一番なのだ。だから、将来、大人になり働くようになったら、きちんと納税をして少しでも貢献したいと思う。僕の大好きな山が、いつまでも美しく、安全であるように。